

大分工業高校同窓会 S37卒



2012(H24)年 4月6日

別府 観海寺温泉 両築別邸





木部先生



木部先生

藤先生



藤先生



藤先生





藤先生



木部先生



米田



川村守継



首藤



後藤



川村守継

米田



川村守継

米田



城



甲斐



後藤





城



幹事 衛藤

次の日

ゴルフ組
湯布院組
別府散策組 — 後藤、都、矢田



2012年4月6-7日

別府温泉 両築別邸

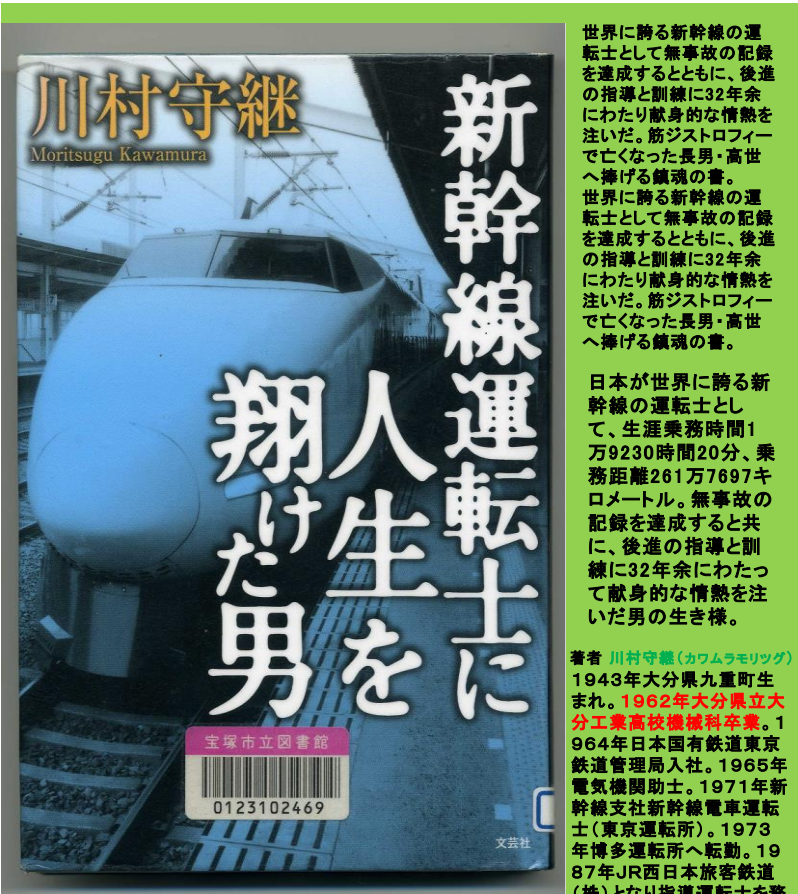
昭和37年卒 大分工業高校機械科同窓会



衛藤 米田 甲斐 佐藤武 都 武田 高橋 佐藤勝 松本公 山口 津行

松本隆 内田 矢野 大城 首藤 大久保

川村 佐田 後藤 伊東 金子 木部先生 藤先生 高野 仲野 矢田 朝来野

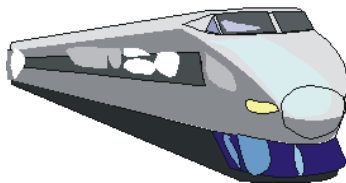


世界に誇る新幹線の運転士として無事故の記録を達成するとともに、後進の指導と訓練に32年余にわたり献身的な情熱を注いだ。筋ジストロフィーで亡くなった長男・高世へ捧げる鎮魂の書。世界に誇る新幹線の運転士として無事故の記録を達成するとともに、後進の指導と訓練に32年余にわたり献身的な情熱を注いだ。筋ジストロフィーで亡くなった長男・高世へ捧げる鎮魂の書。

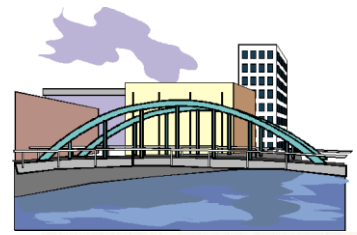
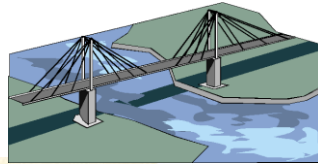
日本が世界に誇る新幹線の運転士として、生涯乗務時間1万9230時間20分、乗務距離261万7697キロメートル。無事故の記録を達成すると共に、後進の指導と訓練に32年余にわたり献身的な情熱を注いだ男の生き様。

著者 川村守継(カウムラモリツグ)
1943年大分県九重町生まれ。1962年大分県立大分工業高校機械科卒業。1964年日本国有鉄道東京鉄道管理局入社。1965年電気機関助手。1971年新幹線支社新幹線電車運転士(東京運転所)。1973年博多運転所へ転勤。1987年JR西日本旅客鉄道(株)となり指導運転士を務める。2003年同社退職(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

2011年2月6日
三木市青山図書館で本の貸し出しを申し込みました。題名は「新幹線運転士に人生を翔けた男」です。三木市の図書館で調べて蔵書としてなく、近隣の市町村に問い合わせたのでしよう。宝塚市に貸し出し申し込んで2週間後に連絡がありました。
矢田 隆是



高校時代の友人の著書



贈る言葉	無事故運転の手引	好きこそ物の上手なれ	指導と訓練	高世君と子犬	運転台は最高の気分	東立ちの日記	まえがき
173	14	123	101	85	41	11	3
退職準備 「こだま630号」博多→広島担当 「ひかり161号」新大阪→岡田担当 四月三日「2002A」のぞみ2号 岡山→新大阪担当 「33A」のぞみ33号 新大阪→博多担当	定年退職を迎えるにあたって 最終乗務 「こだま630号」広島→新大阪担当 「ひかり161号」新大阪→岡田担当 回送列車「2720A」岡田→岡山担当 四月三日「2002A」のぞみ2号 岡山→新大阪担当 「33A」のぞみ33号 新大阪→博多担当	運転士職へ復帰 教導運転士として見習の教育 三カ月後に運転士職へ復帰 在来線運転士から転換の運転士見習再教育 博多新幹線区女性第一号の運転士見習の教育 T・U 運転士見習の初乗務 編成のさながら運転を担当	指導演習風景 新人運転士の養成教育 復旧・営業初列車の運転 指導演習車への依頼 指導演習車として車掌の検査担当教育 新幹線電車の車高故障例 指導演習車の乗務 阪神・淡路大震災	最愛の長男との別れ 長男・高世の回想 高世君へ	新幹線電車運転士合格 新幹線電車運転士見習机上 駅キロボスト 停止ブレイキ 応急処置 修了試験 博多転勤の夢が近く 引越越し 趣味 国鉄解体と民営化	親父の死 貯金 怪我 運転適性検査 電気機関助手七見習 独身寮 電気機関助手科入学 電気機関助手七見習	

読書感想

矢田 隆是

高校時代はごく普通のおとなしく、どちらかと言えば目立たない人だった。同級生として親近感をおぼえながらこの本を読みました。最初の、卒業の時、就職のための夜行列車、機械会社時代の日給月給、独身寮の生活、ひ弱な社会人のさまなどは、当時の自分と同じようです。

国鉄に入社してからの彼は勤勉と、努力、素直さなどから、大きな夢に挑戦・実現させ、まさに社会人としての手本に値するものと思います。なかなか普通の人ではできないすごいことだと思う。私にはとうてい無理だ。強い意志・向上心が必要だし、上司や、奥様にも支えられたのだろう。ご子息の病気で表現できない困難やご苦労があったと思われる中で、本職の新幹線運転に加え、車掌業務の経験、多くの後輩の指導などの重要任務を果たし、しかも長年無事故を達成しているという。超人と言っても好いかもしれない。また退職時には108人と多くの後輩からの送辞にみられるように人柄の良さや、親切さ、指導力、人間性の素晴らしさもうかがうことができる

東京→新大阪、新大阪→博多間の駅、トンネル、カーブ、山、海岸、起伏などなどの風景描写にはびっくりするほど素晴らしい。また、各駅間の距離、トンネル、鉄橋の長さ、エピソードなどはそれぞれ、彼の言う「好きこそもの上手なれ」なのだろう。よくここまで刻銘に記憶・記録されていることに驚嘆。

電気機関助手見習いから数々の試験・難関を突破して新幹線運転士になるまでその勤勉さ・努力にも高校時代の同僚として誇りに思う。2003年開催40年ぶりの同窓会には同席できなかったけど、次回には再会できたらと念願しています。 久しぶりの読書、そして感謝!!